

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

栃木県 佐野市

自治体名： 栃木県 佐野市

担当課名： 佐野市教育委員会教育総務課

電話番号： 0283-20-3106

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	総面積356.04 km ²
人口 (R6.5.1日現在)	113,420人
公立中学校数	8校 ※義務教育学校 2校を含む
公立中学校・義務 教育学校後期課程 生徒数 (R6.5.1現在)	2,695人
部活動数	84部活
市区町村の協 議会・検討会議 等の設置状況	設置済
市区町村の推進 計画・ガイドライン 等の策定状況	策定済

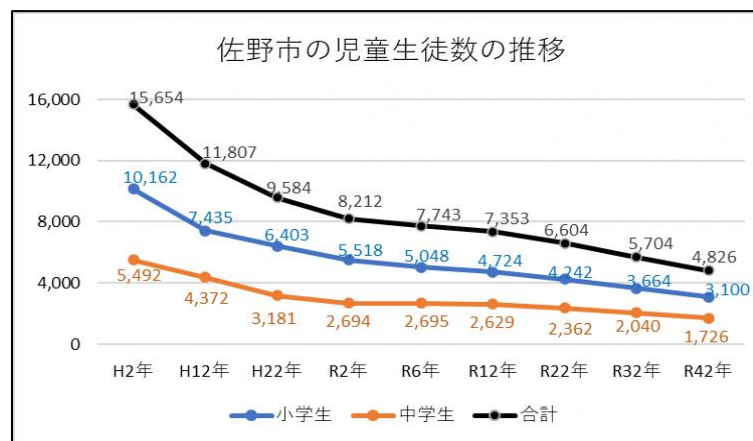
地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、本市には6校の中学校、2校の義務教育学校があり、学校規模は様々であるが、84の運動部活動が活動している。これまでどおりの部活動を継続できる学校もあるが、生徒数の減少により、部活動の数を減らしたり、学校単独でのチーム編成に苦慮したりしている学校もある。さらに、下のグラフにあるように、児童生徒数の減少は今後も続き、現在は大規模な学校であっても、将来的には生徒の望む部活動の存続は難しい現状がある。

これまでの改革推進期間において、部活動地域移行に関わる対象校や対象部活動を計画的

に増やしてきた。保護者にも、部活動地域移行通信の発行や、対象となる学校での保護者への説明などを通して、徐々に地域クラブ活動への認識も広まってきている。合わせて、教職員にとって、休日として土日を2日間過ごすことができるようになるなど、教職員の働き方改革にも寄与している。

これまでの取組からの課題としては、主に指導者の継続的・安定的な確保、学校施設の管理が挙げられる。そのため、指導者の掘り起こしや、施設管理における教職員の負担の軽減について同時に進めていく必要がある。



佐野市人口ビジョンより算出

令和6年度 部活動加入率		
部活動加入率		88.2%
内訳	運動部活動	71.0%
	文化部活動	17.2%

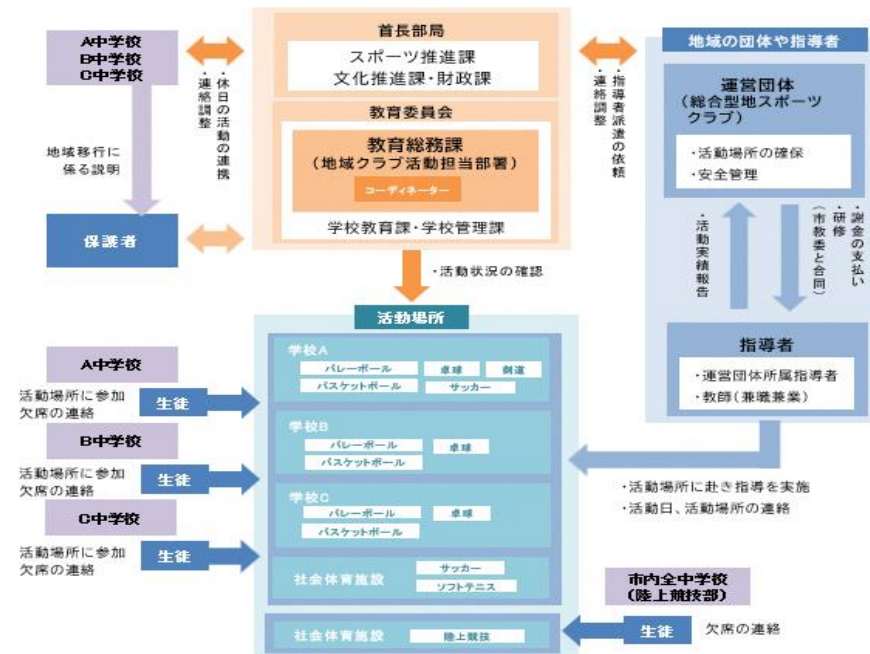
【課題】

平成2年に15,654人であった児童生徒数は、35年度後の令和6年には7,743人となり、約50%減少している。なお、これからも減少傾向は続き、令和12年から令和42年にかけては、児童生徒数が約40%減少すると予測している。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育委員会

- ・教育総務課…部活動地域移行の主幹、学校との調整・連携、運営団体との調整・連携
- ・学校教育課…部活動の主幹、学校との調整・連携、学校に関する事項について
- ・学校管理課…学校施設管理の主幹、中学生の地域文化活動の環境整備

◎首長部局

- ・スポーツ推進課…スポーツ活動の主幹
- ・文化推進課…文化活動の主幹
- ・財政課…予算措置、ふるさと納税の検討
- ・政策調整課…クラウドファンディングの検討

年間の事業スケジュール

- | | |
|---------|---|
| 令和6年5月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 地域クラブ活動推進事業研修会開催（教職員・指導者打合せ） ・第2回 地域クラブ活動推進事業研修会開催（緊急時対応等） ・地域クラブ活動開始（～令和7年1月） |
| 令和6年7月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回庁内検討委員会開催 ・第1回協議会開催 |
| 令和6年8月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第2回庁内検討委員会開催 |
| 令和6年9月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回専門部会（保護者部会）開催 |
| 令和6年10月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第1回専門部会（スポーツ・文化芸術団体部会）開催 ・第1回専門部会（学校部会）開催 |
| 令和6年11月 | <ul style="list-style-type: none"> ・第2回協議会開催 |
| 令和7年1月 | <ul style="list-style-type: none"> ・中学生・保護者・指導者・教職員へのアンケート調査 |

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	8 校（義務教育学校2校を含む）	実施した地域クラブ総数	16 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		16 クラブ（35 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	36 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること（全校一斉で練習を行っている取組）

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末尾 に（新）を付ける	実施回数	実施時 間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方 法
陸上競技 クラブ	総合型地 域スポーツ クラブ	・陸上競技	月 2 回程度	9:00～ 12:00	3年生 97人 2年生 87人 1年生 91人	R6.5～ R7.1	清酒開華 スタジアム （市陸上 競技場）	10 人	2 人 （内、兼務 2 人）	無料	中体連及びそ 他：部活動

③その他、体験会や イベント等の開催実績

- 特になし

【陸上競技の練習風景】



2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	8 校（義務教育学校2校を含む）	実施した地域クラブ総数	16 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		16 クラブ（35 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	36 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること（複数校合同で練習を行っている地域クラブ活動の例）

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末尾 に（新）を付ける	実施回数	実施時 間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方 法
田沼東・ あそ野・葛 生ソフトテ ニスクラブ （女子）	総合型地 域スポーツ クラブ	ソフトテニス （新）	月 2 回程度	9:00～ 12:00	3年生 14人 2年生 16人 1年生 25人	R6.5～ R7.1	あそ野学 園義務教 育学校	2 人	2 人 （内、兼務 2 人）	無料	中体連及びそ の他：部活動
田沼東・ あそ野剣 道クラブ	総合型地 域スポーツ クラブ	剣道	月 2 回程度	9:00～ 12:00	3年生 12人 2年生 3 人 1年生 13人	R6.5～ R7.1	田沼東中 学校	1 人	2 人 （内、兼務 2 人）	無料	中体連及びそ の他：部活動
田沼東・ 葛生バス ケットボー ルクラブ （男子）	総合型地 域スポーツ クラブ	バスケットボー ル（新）	月 2 回程度	9:00～ 12:00	3年生 12人 2年生 11人 1年生 8 人	R6.5～ R7.1	葛生義務 教育学校	2人	2 人 （内、兼務 2 人）	無料	中体連及びそ の他：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 特になし

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	8 校（義務教育学校2校を含む）	実施した地域クラブ総数	16 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		16 クラブ（35 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	36 人	全体の運営スタッフ数	2 人

②各クラブに関すること（各校単独で練習を行っている地域クラブ活動の例）

クラブ名	運営団体 種別	種目 ※新規のものは末尾 に（新）を付ける	実施回数	実施時 間帯	参加者 （学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 （他クラブと兼務）	会費	大会参加方 法
田沼東卓 球クラブ （女子）	総合型地 域スポーツ クラブ	卓球	月 2 回程度	9:00～ 12:00	3年生 8 人 2年生 4 人 1年生 7 人	R6.5～ R7.1	田沼東中 学校	1 人	2 人 （内、兼務 2 人）	無料	中体連及びそ の他：部活動
あそ野学 園卓球ク ラブ（男 子）	総合型地 域スポーツ クラブ	卓球	月 2 回程度	9:00～ 12:00	3年生 6 人 2年生 19人 1年生 10人	R6.5～ R7.1	あそ野学 園義務教 育学校	1 人	2 人 （内、兼務 2 人）	無料	中体連及びそ の他：部活動
葛生卓球 クラブ （女子）	総合型地 域スポーツ クラブ	卓球（新）	月 2 回程度	9:00～ 12:00	3年生 4 人 2年生 3 人 1年生 2 人	R6.5～ R7.1	葛生義務 教育学校	1 人	2 人 （内、兼務 2 人）	無料	中体連及びそ の他：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 特になし

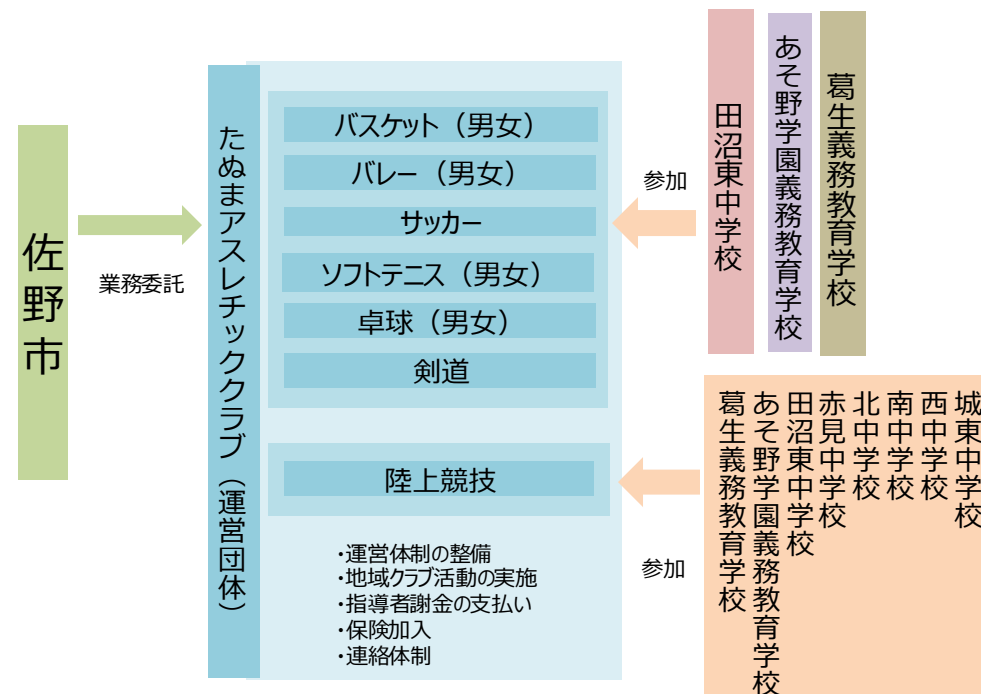
2.実証内容と成果

主な取組例

●陸上競技クラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	陸上競技
運営団体名	特定非営利活動法人 ためまアスレチッククラブ
期間と日数	令和6年5月25日～令和7年1月26日 月2回程度
指導者の主な属性	ためまアスレチッククラブ指導員 ※兼職兼業の教員・市役所職員を含む
活動場所	清酒開華スタジアム (佐野市運動公園陸上競技場)
主な移動手段	自転車、保護者による送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	無料
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●運営体制図(本市の地域クラブ活動を実施する際の運営体制図)



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●運営団体責任者

役割：指導者の派遣を行う。

●地域クラブ指導者 10名

役割：種目別に分かれて陸上競技の指導を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

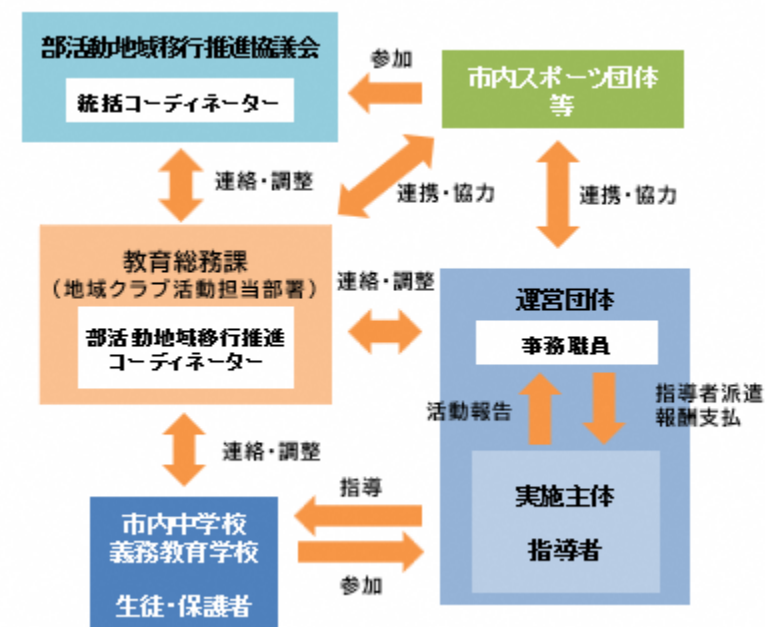
取組事項 コーディネーターに関する取組

統括コーディネーターの配置 コーディネーターの配置

- 本市の取組内容について助言指導を行う統括コーディネーターを部活動地域移行推進協議会に配置する。
- 部活動地域移行推進コーディネーターを教育委員会に1名配置し、関係団体・学校との連絡調整・指導助言等を行う。
- 運営団体においては人員を確保し、体制整備を行う。

取組の成果

- 統括コーディネーターからは、国や他県の部活動地域移行の情報を伺うことができた。
- 部活動地域移行推進コーディネーターを教育委員会に配置したことにより、関係団体との連絡調整・会議運営等を円滑に行うことができた。
- 運営団体においては、部活動地域移行を担当する事務職員を確保した。
- 部活動地域移行推進コーディネーターの働きかけにより、市内関係団体との連携の強化が図られてきた。



コーディネーターの具体的な動きの実績

<統括コーディネーター>

- ・国、他県の動向や情報の提供

<部活動地域移行推進コーディネーター>

- ・関係各団体との連携や連絡調整、取組の説明
- ・地域クラブ活動の様子の定期的な視察（毎月1回）

今後の課題と対応方針

- 次年度のさらなる地域移行を見据え、教育委員会においても人員の確保や関係部署との連携をする必要がある。
- コーディネート業務を担う人材の発掘・育成、資質向上を図る方策の検討を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

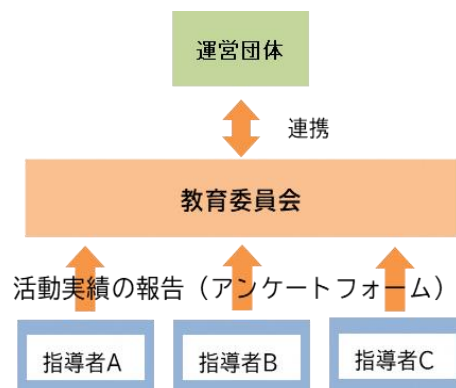
地域スポーツクラブ活動の運営の効率化等に関する取組

指導者の労務管理、活動報告

- 指導者の労務管理、活動報告、謝金計算のため、アンケートフォームを導入した。

取組の成果

- 2次元バーコードを指導者のスマートフォンから読み取り、活動日時、場所、練習内容を報告してもらうことで、その後の事務処理の効率が上がった。



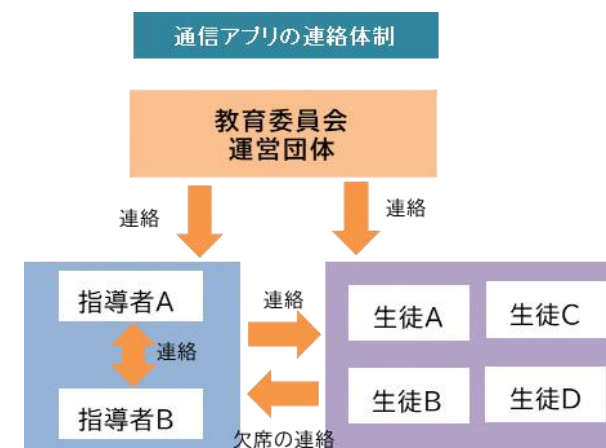
運営支援アプリの導入

- 市教育委員会・運営団体・指導者・生徒・保護者との連絡に通信アプリを導入した。

取組の成果

- 地域クラブの活動日、市教育委員会やたぬまアスレチッククラブからの連絡を指導者、生徒に周知しやすくなった。
- 地域クラブ活動に生徒が欠席する場合、指導者へ通信アプリで連絡ができるようになった。

通信アプリについて



今後の課題と対応方針

- 継続して通信アプリを運用するための財源の確保が課題となる。また、費用負担を保護者に求めるかどうか検討材料となる。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項 研修、資格取得促進に関する取組 平日・休日の一貫指導に関する取組

指導者研修の内容

平日・休日の一貫指導に関する研修

【第1回 地域クラブ活動推進事業 研修会】

- ・開催日：令和6年5月15日（水）
- ・対象：地域クラブ活動指導者、教職員
- ・参加人数：61人（文化クラブと合同）
- ・目的：地域クラブ活動指導員と教職員による協力体制の構築
地域クラブ指導員同士の協力体制の構築
連絡アプリの操作、活動報告の提出方法の確認

救命講習、けがの防止と応急手当に関する研修

【第2回 地域クラブ活動推進事業 研修会】

- ・開催日：令和6年5月19日（日）
- ・対象：地域クラブ活動指導者
- ・参加人数：10人（文化クラブと合同）
- ・内容：地域クラブ活動における生徒指導上の留意点の説明
緊急時の救命救急法の習得

研修の様子

第1回 研修会



第2回 研修会



※資格所有の有無に関わらず、本市で取り組んでいる全11種目のスポーツに関する地域クラブ指導者を対象とした研修を実施。

参加者の声

- 部活動顧問と顔合わせができてよかった。
- 部活動顧問と指導方法について確認できた。
- 救命救急講習は受講したことはあるが、確認できてよかった。

今後の課題と対応方針

- 学校と指導者とのよりよい連携の仕方について検討していく必要がある。なお、研修の他に、部活動顧問と地域クラブ活動指導者が一緒に指導に当たる期間を設けた。
- 指導者の資質の向上についての研修においては、研修の形態や参加方法等を工夫する必要がある。
- 資格を所有していない指導者への資格取得の促進等、指導者の質の向上については今後の課題となっている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連絡

取組事項

体育・スポーツ協会、競技団体、総合型地域スポーツクラブ、大学、企業等との連携に関する取組

競技団体と連携したクラブ活動

- 部活動地域移行推進協議会を通して運営体制や指導者の確保について協議。
- 部活動地域移行推進協議会における協議の他、校長会議、校長研修会、PTA連合会等、関係団体に対して本市の取組及び今後の見通し等の説明を実施。

取組の成果

- 運営体制や指導者の確保については、部活動地域移行推進協議会で確認できた。
- 市内関係団体との連携、地域クラブ活動への理解の推進が図れた。

部活動地域移行推進協議会の委員の構成

- 学識経験者2名（スポーツ分野及び文化芸術分野の有識者各1名）
- 市スポーツ関係団体3名
（スポーツ協会、レクリエーション協会、総合型地域スポーツクラブ代表）
- 市文化協会1名
- 保護者代表4名
- 学校代表4名

部活動地域移行推進協議会の協議内容

- 第1回協議会（令和6年7月4日（水））
 - ・協議内容：第2期佐野市部活動地域移行推進計画の策定、地域クラブ活動の運営団体について
- 部活動地域移行推進協議会専門部会
（令和6年8月1日（木）・26日（月）、9月20日（金）、10月3日（木））
 - ※スポーツ・文化芸術団体部会、保護者部会、学校部会の3部会での協議
 - ・協議内容：部活動地域移行のビジョンについて、運営団体について、受益者負担について
- 第2回協議会（令和6年11月17日（日））
 - ・協議内容：部活動地域移行のビジョンについて、運営団体について、受益者負担について

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連絡

部活動地域移行推進協議会から見てきた課題や対応方針

- 運営体制について、次年度以降準備を進めていく。
- 部活動地域移行推進協議会は、スポーツ・文化芸術団体、保護者、学校の3者の代表者から構成されていることから、それぞれの立場の意見をとり入れながら部活動地域移行を進めていく。
- 競技団体や総合型地域スポーツクラブ等の団体に参画してもらう必要があるため、連携強化を図る。
- スポーツ団体等との連携を通して、指導者の確保に努める。
- 受益者負担については次年度以降も協議を継続する。また、保護者には会費等の負担が生じることを伝えていく。



11月17日（日）は、陸上競技の地域クラブ活動を見学した後、部活動地域移行推進協議会を実施した。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

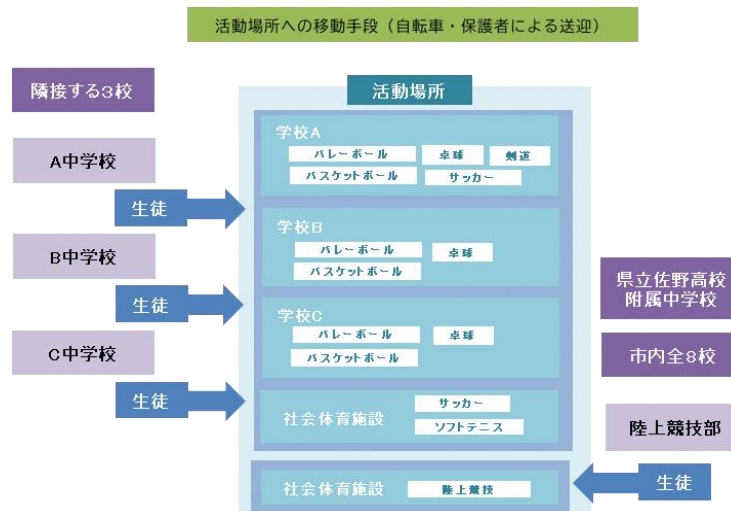
●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

地域移行に取り組む中学校における幅広い運動部活動の地域スポーツクラブ活動への移行の取組

複数校の生徒による合同クラブ

- 隣接する3校の全ての運動部活動を休日の月2回程度を地域クラブ活動へ移行する。
- 市内全ての中学校・義務教育学校の陸上競技部の活動を月2回の休日の活動を1か所（清酒開華スタジアム（佐野市運動公園陸上競技場））で行う。



移動手段

- 自転車
- 保護者による送迎

会場等の調整

- 各校の学校部活動の顧問による連絡調整。
- 社会体育施設は、たぬまアスレチッククラブや中体連で確保。

取組の成果

- 人数が少ない団体種目の活動においては、地域クラブ活動を合同で行うことで練習の幅が広がった。
- 複数校が合同で行う地域クラブ活動においては、交友関係の広がりが見られた。
- 陸上競技において、全校合同で活動することで、種目別に専門的な指導者の下、活動することができた。
- 県立佐野高校附属中学校とも合同で地域クラブ活動（陸上競技）を実施できた。



陸上競技の活動の様子

今後の課題と対応方針

- 移行に取り組む部活動数を段階的に増やし、令和7年度後半には、市内の全ての運動部活動を月2回の休日の活動を地域クラブ活動へ移行する。
- 陸上競技以外の地域クラブの活動場所は学校施設を原則とし、一部の活動日について、社会体育施設の利用する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項 その他

通信や便りの発行

- 市政だよりにより、部活動地域移行の取組を市民全員に周知した。
- 地域クラブ活動に関する取組をまとめた資料を用いて、対象となる保護者に説明会を開催した。

対象校を増やす

- 地域移行推進計画《佐野モデル》に則り、これまでの2校に加え、新たに2校に隣接する学校の運動部活動を地域クラブ活動として実施した。

取組の成果

- 市民や保護者に周知することができた。
- 新しく地域クラブ活動を実施した学校においても、生徒は楽しそうに活動することができた。

今後の課題と対応方針

- これまでの取組を基に、今後も計画的に対象校を増やしていく。
- 通信や便りを今後も定期的に作成し、保護者に継続的に周知を図る。



【広報誌 令和6年4月号】

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等

取組事項 費用負担の在り方に関する取組

基金の設立 クラウドファンディング

- 庁内にて、クラウドファンディングを活用した地域クラブ活動運営のための基金創設を検討する。

取組事項 その他

保護者負担についての協議

- 部活動地域移行推進協議会で保護者の費用負担等について協議を行う。

保護者の費用負担等に関する現時点での考えや意見 (部活動地域移行推進校議会による検討)

- 保護者の費用負担の公平性、費用の負担軽減を図るため、経常的にかかる費用、臨時的にかかる費用に分けて対応する。
- 費用負担を求めることで、地域クラブ活動に加入しなくなってしまう生徒が出るかもしれない。
- 今までは無償で部活動に取り組んでいた。地域クラブとして取り組むにあたり、全く無償がよいとは言わないが、悩んでしまう。
- 保護者に費用負担を求めるよう周知していくことが必要。

取組の成果

- クラウドファンディングの活用を図った基金の創設について合意が得られた。
- 会費の適切な設定・徴収項目の検討を協議会で行った。

今後の課題と対応方針

- 保護者の費用負担について、具体的な内容（金額や徴収する時期や徴収する内容）については、今後も検討していく。
- 安定的な財源の確保に向けて、今後も関係部署と協議を続けていく。
- 地域スポーツクラブ活動の運営や指導者配置等に必要コストを検証するとともに、こうしたコストをどのように賄っていくかについて受益者負担等と公的資金との適切なバランスも含めて収支構造を検討する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項 学校施設の効果的な活用や管理方法に関する取組

学校施設・備品等の利用ルール設定

- 地域クラブ活動は、主に学校施設を利用することから、施設管理について教職員の負担の軽減を図るための対応を庁内で検討した。

取組の成果

- 警備会社に校舎の鍵の開閉を依頼したところ、職員の派遣が難しいと断られた。
- 学校の体育館で地域クラブ活動を行う際に、キーボックスを利用した運用を始めた。現在のところ、大きな支障なく運用ができています。

今後の課題と対応方針

- 学校施設、特に校舎を利用する文化クラブについては、施設管理について課題が残った。活動場所までの移動の導線の整備、スマートキー設置に向けた課題やランニングコストの試算など、今後検討を行う。



キーボックスの使用例

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

- 新しく加わった学校の生徒に大きな混乱がなく地域クラブ活動を行うことができた。
- 対象校が2校から3校へと1校増え、対象となる部活動が増えたものの、月4回の休日のうち、月2回を地域クラブ活動、残り2回を部活動として、これまでの取組と同様に実施することができた。
- 運営団体については、本来の業務を行いながら部活動地域移行の運営団体になることは、難しい面があることが見えてきた。
- 部活動地域移行推進協議会において、次期計画に関する内容を協議したことで、本市の目指す部活動地域移行の姿が見えてきた。また、保護者の負担についての協議をすることができた。



【ソフトテニス】

●成果の評価

- 3校＋市内全8校の陸上競技部の地域移行ができたことで、全校の休日に活動する全ての部活動の地域移行へ向け、課題となる部分（指導者の確保、学校施設の管理等）が見えてきた。
- 対象校が増えても対応することができた。次年度は市内全校の休日に活動している運動部すべてが対象となる。これまでの取組を生かして対応していく。
- 指導者の確保については、県の指導者バンク等を活用することができた。

●今後に向けて

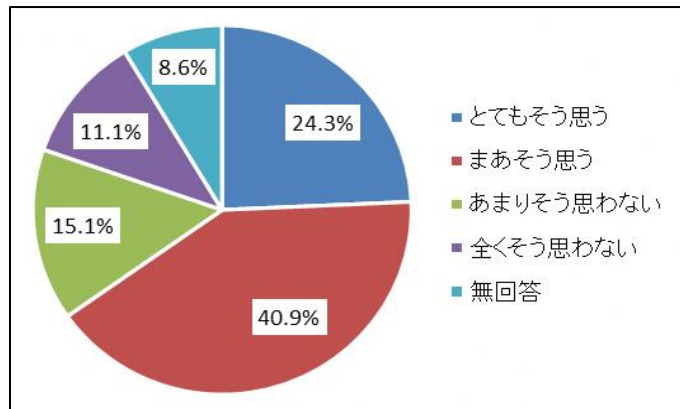
- 指導者については、県の指導者バンクの活用の他、スポーツ協会等各種団体とも連携を図り、確保に努めたい。
- 学校施設（体育館）の管理運用の面については、キーボックスを利用することで教職員の負担軽減が図れることが分かった。次年度以降、対象となる学校においても活用していきたい。また、よりよい施設管理の方法を検討していきたい。
- 運営団体については、本来の業務を行いながら部活動地域移行の運営団体になることは難しい面があることが見えてきたため、どのような運営団体がよいのか、令和9年度をめどに対応していきたい。
- 本市の目指す地域クラブ活動についてのビジョンの共有を図っていきたい。

2.実証内容と成果②

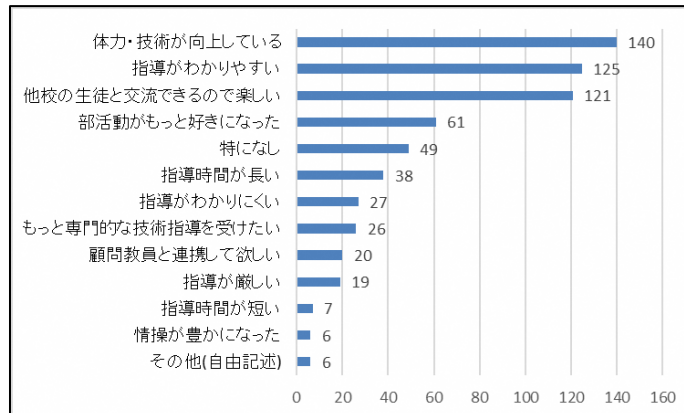
アンケート結果・参加者の声

● アンケート結果（スポーツの地域クラブ活動に参加している生徒）

Q.次年度も地域クラブ活動に参加したいと思いますか？



Q.地域クラブ活動に参加してどのように感じていますか？



栃木県が実施した「令和6(2024)年度休日の地域クラブ活動に関するアンケート」
〔実施期間 令和7年1月6日～17日〕における佐野市の回答結果

● 参加者の声

中学2年生（など）

学校の部活では得られない情報を得ることができ、自分に有益である。

中学2年生（など）

休日の自由と両立しながら、適度にやりたい。

中学2年生（など）

他校との交流が増えて、いいと思う。

中学1年生

休日を自由に過ごす時間はなくなるけれど、楽しく行って向上できていると思う。

中学2年生

休日に他校の生徒と練習ができるのは自分たちにとって技術が上がったりして、利点も多くありますが、指導者が異なってしまうためどちらに合わせで練習をすればいいのが少し混乱してしまったりする点がある。

中学2年生

人数の多い地域クラブでは、生徒一人一人の課題解決につながる練習はできないので、よく思わない。

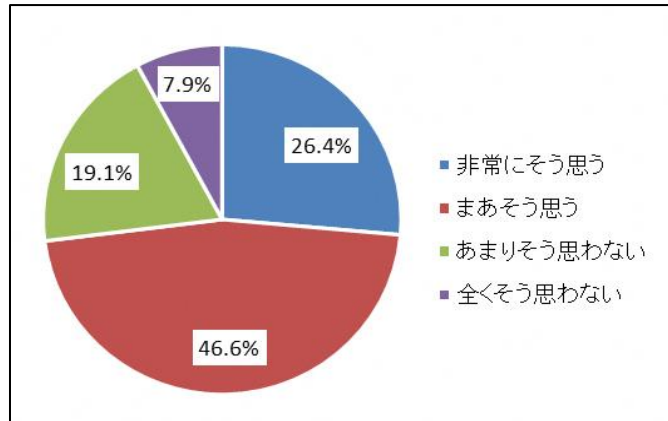
2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（子供がスポーツの地域クラブ活動に参加している保護者）

●保護者の声

Q.次年度も休日の地域クラブ活動として実施してほしいですか？



保護者

顧問よりも専門的な練習に特化し、平日は基礎をやるなど、何をするのかを明確にしてみてもどうか。

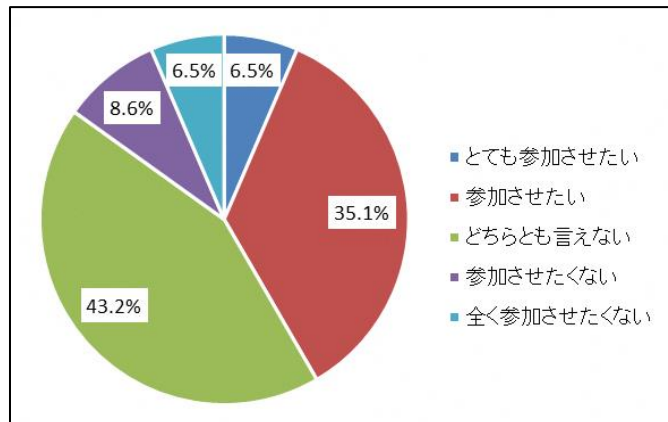
保護者

活動場所まで保護者送迎となっており、保護者の負担が増えている。

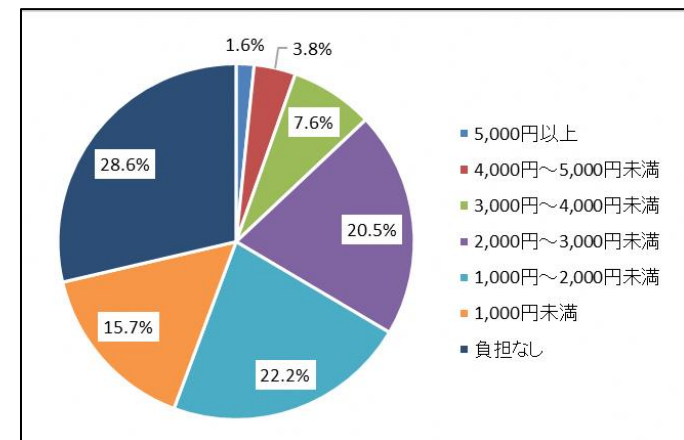
保護者

休日の地域移行には賛成。

Q.地域クラブ活動に参加する際に保護者負担があっても参加させたいですか？



Q.休日の部活動が地域移行をする場合、保護者の負担額（月額）はどの程度が妥当と考えますか？



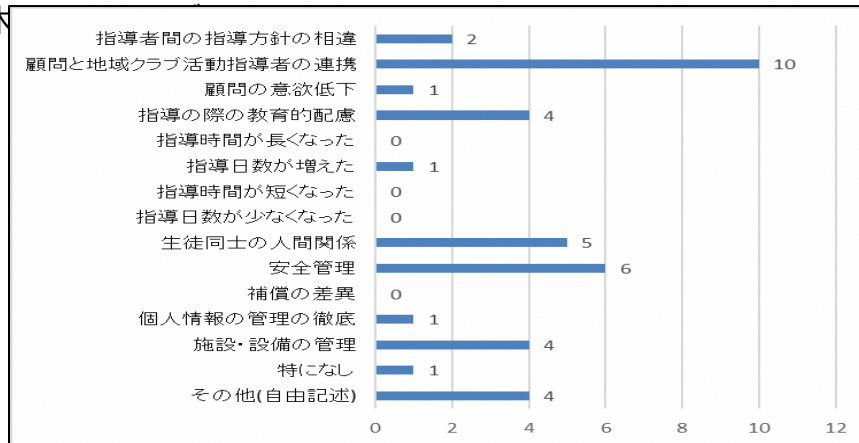
栃木県が実施した「令和6(2024)年度休日の地域クラブ活動に関するアンケート」(実施期間 令和7年1月6日～17日)における佐野市の回答結果

2.実証内容と成果②

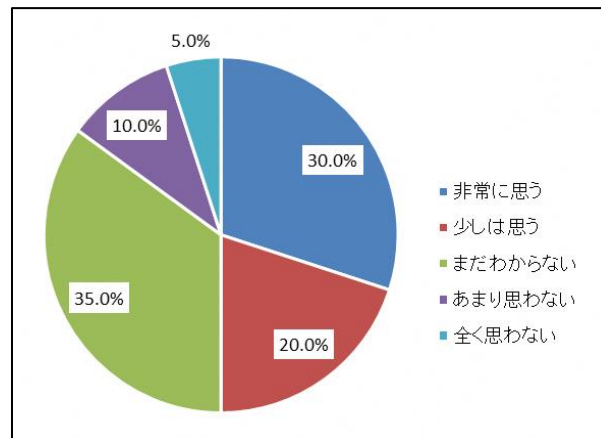
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果（運動部・文化部の全指導者）

Q.休



Q.次年度も地域クラブ活動指導者として指導に携わりたいですか？



●指導者の声

指導者

指導者は基本的に本業として別の仕事を持っているため、平日に指導することは現実的ではない。もし平日にも指導を行う場合、それに見合った収入が得られる環境が必要になる。

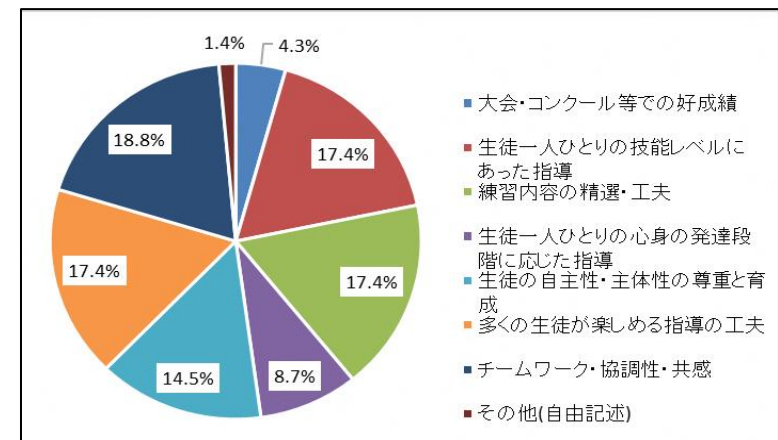
指導者

地域移行は良いと思う。問題はこれらを受入られる団体の選択(指導者も含む)が重要と思う。

指導者

勝負に重点を置か教育の一環として活動するかモチベーションの違いが難しいところではないか。

Q.休日の地域クラブ活動の指導にあたり特に重視していることは何ですか？
(複数選択可)



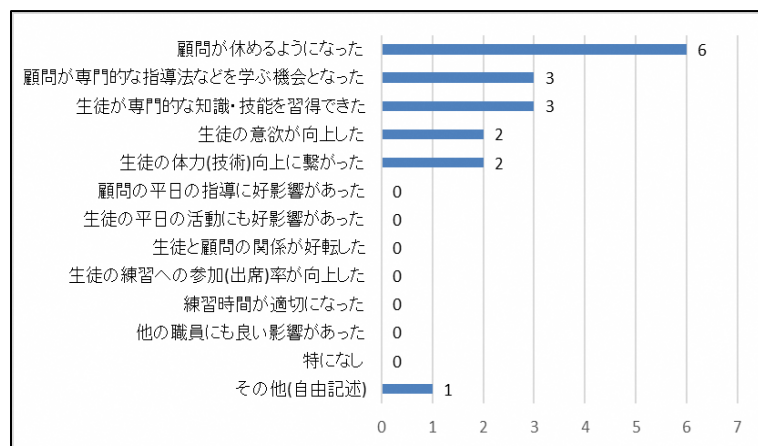
栃木県が実施した「令和6(2024)年度休日の地域クラブ活動に関するアンケート」(実施期間 令和7年1月6日～17日)における佐野市の回答結果

2.実証内容と成果②

アンケート結果・参加者の声等

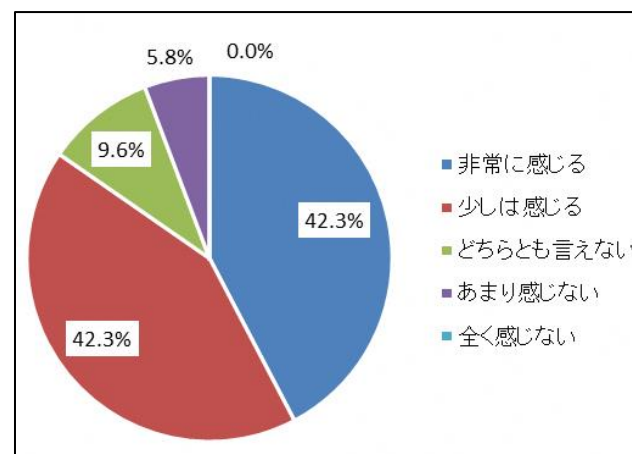
●アンケート結果（校長）

Q.地域クラブ活動を実践してよかった点は何ですか？



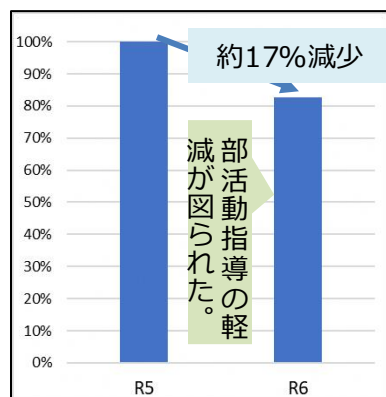
●アンケート結果（教職員）

Q.御自身の負担軽減につながったと感じますか？

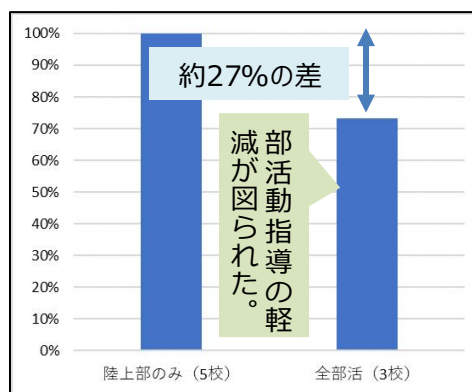


栃木県が実施した「令和6(2024)年度休日の地域クラブ活動に関するアンケート」(実施期間 令和7年1月6日～17日)における佐野市の回答結果

●休日の学校部活動の指導時間（令和5年度と令和6年度の特種勤務手当による比較）



今年度から全部活動を地域クラブ活動とした葛生義務教育学校では、昨年度と比較して特殊勤務手当（部活動）が約17%減少した。



陸上競技部のみを地域移行している5校と全部活動を地域移行している3校では、一人当たりの特殊勤務手当（部活動）に約27%の違いがあり、部活動指導の軽減が図られている。

●教職員の声

部活動を地域移行するならば、休日だけでなく平日も実施してもらうことで、教職員の負担は大きく減っていくと思う。

土日に小さい子供を預けてるため、部活に参加できる日が少なく、また、自分の子供の部活も遠征が多いので、土日に地域で部活を見て頂けるとありがたい。

2.実証内容と成果③

広報資料等

【広報誌 令和6年4月号】



【保護者へのプレゼン資料】

令和6年4月9日

部活動地域移行の取組について

～《佐野モデル》に基づく「学校部活動」の「地域クラブ活動」への移行～



佐野教育委員会教育総務課

【部活動地域通信 No.7の一部】

【保護者説明会での配布資料（一部）】

佐野市立学校部活動地域移行通信 No.7

学校部活動から地域クラブ活動へ

～部活動地域移行推進計画《佐野モデル》に基づく学校部活動の地域移行～
令和6年9月 佐野市教育委員会

「佐野市立学校部活動地域移行通信 No.6」では、学校部活動地域移行の背景や《佐野モデル》の概要など、学校部活動の地域クラブ活動への移行について、基本的な考え方を再確認しましたが、今号では、今年度のこれまでの取組についてご紹介します。

【令和6年度の実績】

令和6年度は3校全科目※+全8校の陸上競技で実践

※休日の活動する部活動が対象

実施種目・実施校

- 陸上競技 城東中学校、西中学校、南中学校、北中学校、赤見中学校、田沼東中学校、あそ野学園義務教育学校、葛生義務教育学校
- 野球 あそ野学園義務教育学校
- バスケットボール(男子) 田沼東中学校、葛生義務教育学校
- バスケットボール(女子) 田沼東中学校、あそ野学園義務教育学校、葛生義務教育学校
- バレーボール(男子) 田沼東中学校、葛生義務教育学校
- バレーボール(女子) 田沼東中学校、あそ野学園義務教育学校、葛生義務教育学校
- サッカー 田沼東中学校、あそ野学園義務教育学校
- ソフトテニス(男子) 田沼東中学校、あそ野学園義務教育学校、葛生義務教育学校
- ソフトテニス(女子) 田沼東中学校、あそ野学園義務教育学校、葛生義務教育学校
- 卓球(男子) 田沼東中学校、あそ野学園義務教育学校、葛生義務教育学校
- 卓球(女子) 田沼東中学校、あそ野学園義務教育学校、葛生義務教育学校
- 剣道 田沼東中学校、あそ野学園義務教育学校
- 吹奏楽 田沼東中学校、あそ野学園義務教育学校、葛生義務教育学校

今年度も特定非営利活動法人たぬまアスレチッククラブの運営により、全部活動で、指導者は39名、3年生及び9年生を含め約750人の生徒が活動に参加しています。なお、卓球及び吹奏楽を除き実施校合同で活動しています。

部活動地域移行の取組について

～《佐野モデル》に基づく「学校部活動」の「地域クラブ活動」への移行～

令和6年4月
佐野市教育委員会教育総務課

1 学校部活動の意義と課題

(1) 学校部活動の意義 … 様々な教育的意義を有する部活動

生徒の自主的・自発的な参加により行われる学校部活動は、生徒のスポーツ・文化芸術等に親しむ機会を確保するとともに、自主的で多様な学びの場として、様々な教育的意義を有し、学校教育において大きな役割を担っています。例えば、達成感の獲得、責任感・連帯感及び自主性の育成にも寄与しています。また、人間関係づくりや自己肯定感を高めたり、問題行動を抑えたりすることにも貢献しています。

(2) 学校部活動の課題 … 少子化等の影響から持続可能性という面で厳しい少子化の影響や価値観の多様化等により、部員数が少なく団体種目においてチームが揃わず大会に参加できなかったり、設置できる部活動に限られ、生徒が希望する部活動が自分の学校になかったりする場合があります。また、休日も含めた指導など、部活動は教員の限られた活動時間によって変えられており、教員には大きな業務負担となっている点も看過できません。

学校教育の一環として行われてきた「部活動」を、社会教育の一環として、運営や指導を地域の皆様が担う「地域クラブ活動」に移行する取組が始まっています。

※地域クラブ活動とは

地域クラブ活動は社会教育法上の「社会教育」の一環として実施される教育課程外の活動（つまり、教員が指導する学校教育ではないということ）で、地域クラブ活動の運営は地域のスポーツ・文化芸術団体が担います。また、指導者と教員ではなく地域の方々です。

2 これまでの佐野市の取組

(1) 国・県指定の拠点校としての取組

田沼東中学校では、令和3・4年度の2年間、国・県の拠点校の指定を受けて、休日の学校部活動の地域移行に取り組みました。そして昨年度(令和5年度)は、あそ野学園義務教育学校を加えた2校で、同様の取組を実施しました。さらに昨年2学期からは、市内全8校の陸上競技部が地域移行に取り組みました。

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【陸上競技（一斉実施型）】



【剣道（田沼東中・あそ野学園義務教育学校）】



【男子バスケットボール（田沼東中・葛生義務教育学校）】



【卓球（葛生義務教育学校）】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和3・4年

地域学校部活動、地域クラブ活動開始（市内1校）

令和5年

協議会設置及び協議
計画策定検討開始
学校現場との調整
保護者への説明
地域クラブ活動の実施
（市内2校＋陸上競技部）

令和6年

協議会による協議
地域クラブ活動の実施
（市内3校＋陸上競技部）

令和7年

協議会による協議
地域クラブ活動の拡大
運営団体の検討

ステークホルダー

学校、総合型地域スポーツクラブ、スポーツ協会、競技団体
市長部局、市教委、総括コーディネーター、コーディネーター

経過・実施内容

令和3年度の「地域部活動推進事業」において、田沼東中学校が拠点校となり、総合型地域スポーツクラブためまアスレチッククラブを運営団体として、月2回の休日を地域部活動として実施した。（令和3・4年度）

令和5年度には、あそ野学園義務教育学校を加えた市内2校の部活動地域移行及び市内全校の陸上競技部を合同で地域クラブ活動として実施した。また、部活動地域移行推進コーディネーターの配置、部活動地域移行推進協議会を設置した。さらに、市内全校の休日に活動している部活動において、月2回の休日を地域クラブ活動とするため、部活動地域移行推進計画《佐野モデル》を策定した。

令和6年度は、葛生義務教育学校を加えた市内3校及び陸上競技部で部活動地域移行を進めた。

実施にあたって生じた課題

休日の地域クラブ活動において、学校施設の管理に対する教職員の負担が大きいことが指摘された。令和6年度途中から、学校の体育館にキーボックスの利用を検討し、導入を図った。

また、指導者の不足が大きな課題として指摘されている。市内のスポーツ団体との連携や、コーディネーターによる関係者への働きかけを検討している。

今後の展開

令和7年9月からは、市内すべての中学校、義務教育学校において、月2回の休日を地域クラブ活動として実施する。また、持続可能な地域クラブの運営とするために、会費負担の検討を継続する。保護者の理解を得るために、地域クラブのパンフレットを作成し、会費負担の必要性について説明する。

3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

組織・団体	内容	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	令和8(2026)年度	基本目標	
市	協議会	部活動地域移行推進協議会の開催（年3回程度）				（基本目標） 生徒が主体的に多様なスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる	
	計画	計画策定準備	部活動地域移行推進計画《佐野モデル》				
			第2期計画策定準備		第2期計画		
	新運営団体			新団体設立準備			
	その他	新しい課題への対応					
		保護者への周知					
			連絡ツールの導入				
市・運営団体	指導者	指導者の確保・研修					
学校	2校＋陸上競技部	月2回の地域クラブ活動					
	3校＋陸上競技部		月2回の地域クラブ活動				
				すべての休日の地域クラブ活動に向けた試行期間			
	全校全部活動				月2回の地域クラブ活動		
					試行期間	月2回の地域クラブ活動本格実施	
	教職員		兼職兼業による地域クラブ活動への参画				
地域クラブの運営		たぬまアスレチッククラブによる地域クラブ活動の運営			新団体との共同運営		